

4 芝公園及び周辺地域の現況と課題

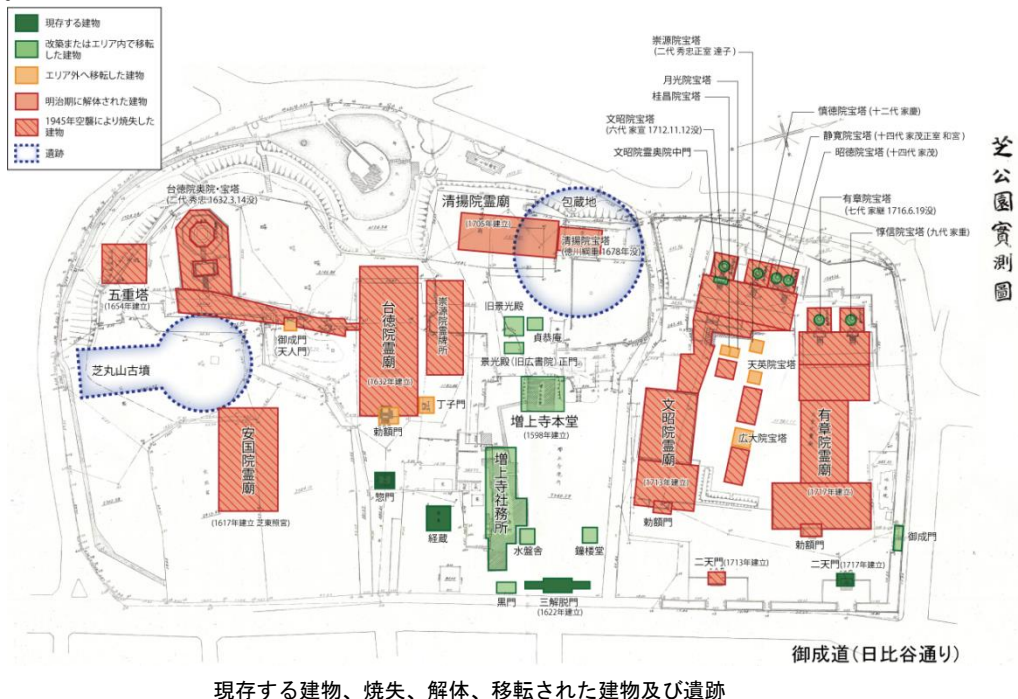
1) 地域固有の歴史・文化資源

現況

- ・ 戦災などにより霊廟等は焼失したが、重要文化財の三解脱門や旧台徳院霊廟惣門、有章院霊廟二天門など江戸期の大規模な建造物が、往時の姿を現在に伝えているとともに、周辺には増上寺ゆかりの子院等も多く残っているなど、江戸の歴史・文化が今も周辺の街に広がっている。
- ・ 丸山ともみじ谷など武蔵野崖線の豊かな緑、増上寺をはじめとする建造物を背景とする空間特性、日比谷通りから増上寺・霊廟に向かって伸びる軸線が、往時の都市構造として今も残っている。
- ・ 崖線を構成する緑には、スタジイやムクノキなどの歴史を感じさせる大径木が存在している。
- ・ 1958年（昭和33年）には東京タワーが開業し、国内外から多くの人々が訪れる観光名所となっている。また、増上寺や東京タワー、崖線の緑などが一体となって、特徴的な景観を形成している。

課題

- ・ 江戸時代の歴史・文化を今に伝える芝公園の中心部は重要な場所であるが、戦災による霊廟等の焼失や民間のホテル利用などにより、歴史的空間が潜在化するとともに、崖線の緑が分断され、公園や緑の拠点としての一体性が確保されていない。
- ・ シンボリックな観光資源である東京タワーの維持・活用を図るとともに、東京タワーの関連施設や民間のホテルの機能更新を適切に誘導し、歴史・文化の再生や崖線の緑と一体となった緑化空間の形成等を図ることや、公園機能の早期発現が求められている。
- ・ 三解脱門を中心とする門、霊廟などの歴史的建造物、崖線の緑などの特徴的な地形が、まちの景観に十分に生かされていない。
- ・ 大門から三解脱門の間の子院群は、増上寺と歴史的なつながりが強く、往時の街並みを残しており、景観の保全や歴史的な資源としての活用が求められている。
- ・ 歴史・文化資源を情報発信する機能やまちの魅力を高めるソフト的な取り組みが不足している。



出典：公益財団法人東京都公園協会資料データベース「芝公園実測図1/600」から作成

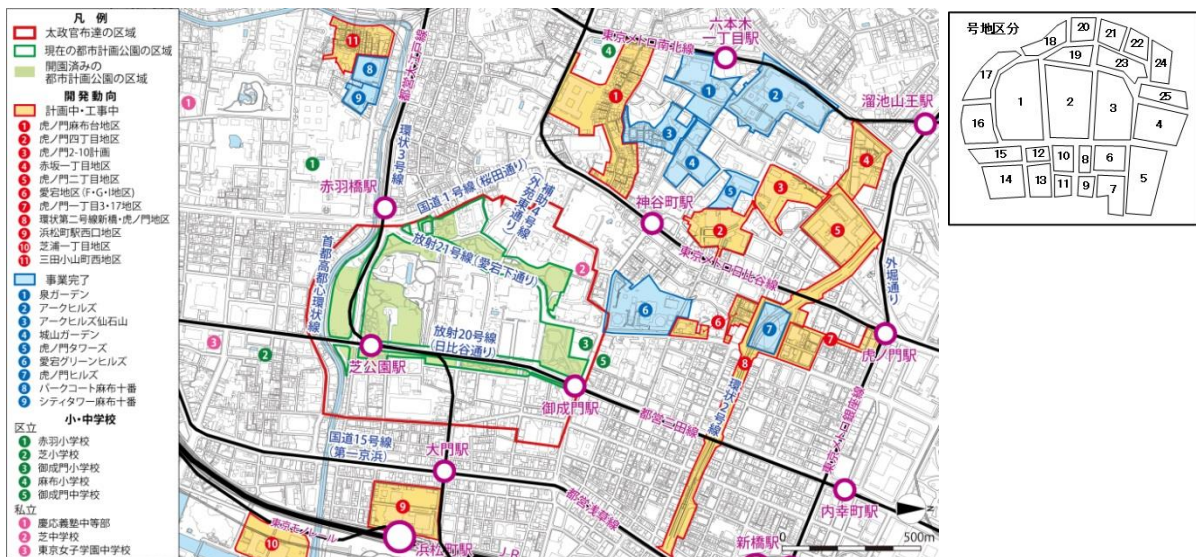
2)地域特性を活かしたまちづくりと周辺地域との連携

現況

- 芝公園は、都心のエリアに近接し、日比谷通りや国道1号、愛宕下通りなどの幹線道路に接し、また、羽田空港の玄関口である浜松町駅や都営地下鉄三田線芝公園駅・御成門駅、東京メトロ日比谷線神谷町駅、都営地下鉄大江戸線赤羽橋駅・大門駅などに近接する交通利便性の高い場所に立地している。
- 芝公園の北西の六本木・虎ノ門地区では、1986年（昭和61年）の林野庁職員宿舎の土地利用転換を契機として、大規模な都市開発が実施され、高次の都市機能の集積が進んだ。また、2014年（平成26年）3月には、環状第2号線新橋～虎ノ門間が開通するとともに、2016年（平成28年）2月には、東京メトロ日比谷線の神谷町駅～霞ヶ関駅間の新駅整備が着工されており、これらを契機として、環状第2号線周辺を含み、外国人の居住・教育・生活支援機能を備えたビジネス拠点の形成を図る複数の都市再生プロジェクトが計画・実施されている。
- 芝公園には、増上寺や東京タワーなどの歴史・文化・観光資源を背景に、国内外から多くの人々が訪れている。また、民間のホテルでは国際会議などが開催され、増上寺はユニークベニューとして活用されているなど、観光・国際交流の両面から、更に発展する可能性がある。
- 4号地には、老朽化した区立図書館が立地し、4号地の開園済み都立公園に隣接して区立小学校、区立中学校校庭、区道を挟み区立中学校校舎が立地している。
- 3号地には民間のホテルがあり、未供用区域となっており、公園としての一体性が弱い。

課題

- 交通利便性や歴史・文化・観光資源、周辺地域への高次の都市機能の集積など、将来の発展性を持つ地域特性を、まちづくりに生かしきれていない。
- 芝公園駅や御成門駅などが隣接しているが、「駅と公園」、「駅と街」との繋がりが弱く、バリアフリー動線が十分に確保されておらず、駅前には違法駐輪も多い。
- 東京タワーへの歩行者ネットワークや周辺の都市開発エリアとの連携が弱く、地域としての魅力を高めるための連携が必要である。
- 芝公園の利便性や快適性、安全性の向上のため、3号地と4号地の一体的な整備が求められている。また、隣接する区立小・中学校等教育環境への配慮が求められている。
- 老朽化した区立図書館の機能更新が求められている。



周辺地域の状況

出典：国土地理院の電子地形図（基盤地図情報）
に太政官布達の区域等を追記して掲載

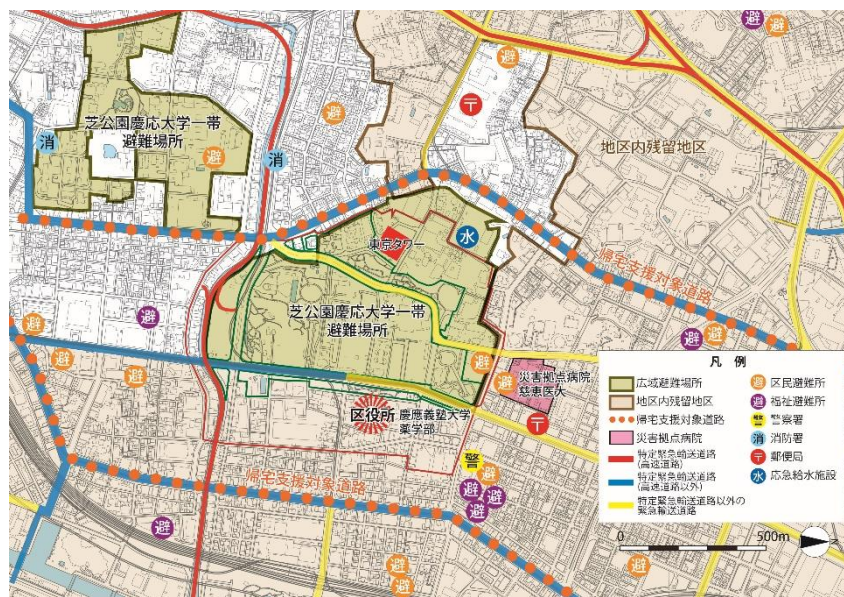
3)防災機能の強化

現況

- 芝公園を含む「芝公園・慶応大学一帯」（約 67.6ha 避難人口約 128 千人）は、広域避難場所に指定されており、災害時には、西南側の市街地から避難者を受け入れることが想定されている。
- 芝公園が接する日比谷通りは、特定緊急輸送道路及び一般の緊急輸送道路に、国道 1 号は、一般の緊急輸送道路に指定されている。また、国道 1 号及び国道 15 号は、災害時の帰宅支援対象道路に指定されている。
- 港区の「津波・液状化シミュレーション」では、伊勢湾台風級の高潮と元禄型関東地震が同時に発生し、防潮施設が機能不全となり、さらに、液状化により 50cm 地盤沈下した場合には、日比谷通り沿いに 1.5m の浸水が発生することを予測している。
- 東京都が平成 30 年 12 月に改定した「城南地区河川流域浸水予想区域図」では、想定最大規模降雨（1 時間最大雨量 153mm、総雨量 690mm）が神田川流域に降った場合に、日比谷通り沿いにおおむね 0.1～1.0m の浸水深が予想されている。
- 芝公園に近接して、災害対策本部となる港区役所や災害拠点病院である慈恵医大、警察署などの災害時の主要な機能が集積している。
- 浜松町駅・竹芝駅周辺では、2016 年（平成 28 年）2 月、虎ノ門地区では、2019 年（平成 31 年）2 月に、滞在者等の安全の確保を図る都市再生安全確保計画が策定されている。

課題

- 避難者を安全に収容するため、未供用区域等の整備に当たっては、広域避難場所の機能の向上を図ることが求められている。
- 民間のホテルの機能更新等においては、帰宅困難者対策などの地域の防災性の向上が求められている。
- 外国人観光客等の避難誘導、案内、情報提供などの対応が求められている。
- 地域防災計画を踏まえ、民間による支援策の検討が求められている。



避難所等の指定状況

出典：国土地理院の電子地形図（基盤地図情報）に広域避難場所等を追記して掲載